

見て触れて体験したら、テクノは、知的興奮でいっぱい。

とても親密感。

熊本テクノポリスセンター訪問記
ママさん特派員ロボ

永田 英津子さん

さわやかな秋晴れなのに、私の心はブルーブルー。電卓で計算しても必ず検算をソロバンでやってしまう、そんな私がテクノポリス取材するのですから。第二空港線を一路センターへ、看板を規制されてるだけあって、すっきりと美しい。県木の楠の並木が次々に視界を横切る。ただけ道路近くに家とか店は建たないのかしら、又楠は大木になるし、視界は大丈夫かしら、落葉の山は？とすぐいじわるな目で見てしまいます。

阿蘇山を背景に、広い高遊原台地に、こつ然とモダンな姿を見せるテクノポリスセンター、一帯のテクノ・リサーチ・パークではあちこちで工事の音が響き、中央緑地帯も完成間近のようです。

熊本の国際化、情報化のための、基金協力。予想以上でびっくり!

「テクノポリス財団というのは、第三セクターで作られているのですが、40億円近い基金の中で特に民間企業より22億円もの基金協力があり予想以上でびっくりしました。行政だけでなく民間との協力の元にいろんな事業が展開されているのです。」とテクノポリス財団の担当者のお言葉でした。想像もつかぬ金額にピンとこない感もありますが、この一地方の熊本の企業が、今後の情報化、国際化の為に、先見の明をもって対処してる事は大変な驚きでした。

とにかく、うんと利用しなくてはもったいない。

子供達の人気の的、似顔絵ロボット君に面会。3分間で精密に、残念ながらそっくりに描いてくれました。他には情報案内キングスとキャプテン、お仕事ロボット、お絵かきパソコン、ビデオライブラリーetc。関係ない、解らないと思っていた先端技術に、見て触れて体験して、何だかとても親密感を覚えました。毛嫌いしていたファミコンをこっそり習得して、子供達をアツと言わせなくちゃあ!

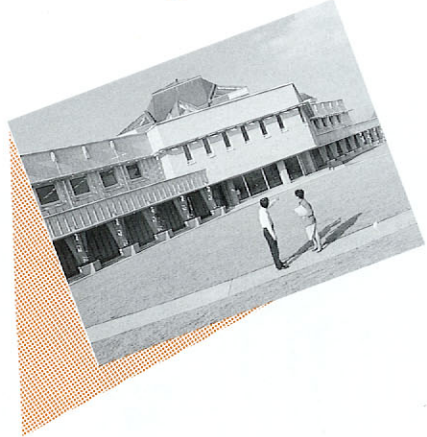
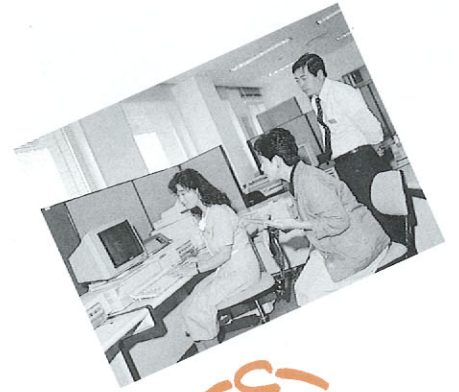
2階にはこのセンターの核である技術情報センターやパソコン、大形スクリーン、コンピュータを駆使して研修出来る人材育成センターがあり、端末機がずらり。一般主婦の私には解りにくい点が多いけど、これだけの施設、とにかく、うんと利用しなくては、もったいないと思ってしまいます。

五年先にはきっと、素晴らしいテクノの町に。

センター隣に、一昨年出来た、電子応用機械技術研究所では、研究開発の為の実験室が並び、今にも007シリーズのボンド君が登場するのはとワクワクしてしまいました。もちろん、いろんな研究の機密保持はなされているのですが、県内企業に就職する条件で人材育成制度もあり、すでに一期生が県内で働いているとの事でした。

最近の企業進出の条件は、空港に近く、優れた住環境があり、高度な人材が確保出来るということだそうで、熊本も10年先、いえ5年先には、きっと素晴らしいテクノの町になっている事でしょう。夢の町づくりが、現実の町となって、すぐそこに姿を現わし始めているのです。

今、私の心の中は“知的興奮”でいっぱいです。



TECHNOPOLIS CENTER

